

終邊報丙第三一七號

發 G L O
受 事務官
時間 一五三〇
昭和二十一年九月十一日
課

情報 事務課復員班注意あり度 普通

引揚關係 G H Q 連絡事項 九月十日

一、米船「ヴェリ」號九月十三日横須賀入港の豫定なる處同船に朝鮮人五名便乗し居るに付右横須賀上陸の上浦賀援護局經由博多へ送致方手配せりたい。

二、ハワイより邦人(P、O、W)一七一九名積込の爲九月二十五日横濱出帆の船あり(V O 九號の豫定)、又九月二十四日名古屋より「マニラ」の邦人(P、O、W)積込の爲葛城出帆の豫定につき、引揚着用被服、食糧等同船に積込方準備せりたい。

尙九月末沖繩よりの引揚の爲 L B T 二隻名古屋より那覇に向ふ筈。

三、沖繩縣人送還に關し今後佐世保よりは北沖繩島人のみを送出し南沖繩島人は鹿兒島より送出すべしと現地軍より命令あり、尙右は G H Q ウッド中佐現地出張の上決定命令されたるものなる趣、厚生省より報告あり。右は従來の輸送計畫を根本的に變更するものにして若し右命令が事實とせば甚だ困る旨當のウッド中佐現地出張の處次懇命任は右様事實を、多分現地軍の誤解なるべきに付き早速現地軍に訂正方電報すべしと述べてゐた。

四、厚生省の報告では名古屋は再び四〇〇〇名以上の沖縄向滞留し居る趣であつたのも司令部の情報を確かめた處現在三三〇〇名余りしか残つてゐない由である。尙各援護局とも所定送還数の三倍位の人員を常に滞留せしめ置く様せられ度い（名古屋ならば三〇〇〇名）である。

五、字品の沖縄縣人集り悪い處今後共之が築結方努力ありたく船腹の關係よりみるも今の中に成るべく多数送り度いとの事である。

大阪府の沖縄縣人が割合定着し歸還を欲せざる趣を傳へた處目下沖縄の生活狀況は極めて良好で食糧配給も内地より良好、住宅も目下内地より建築資材を送り積極的に増建しつつあり沖縄縣人啓發資料を司令部にて築める様手配してもよろしいとのことである。

六、閉鎖すべき援護局は成るべく早く閉鎖完了方努力すべく遅くも九月三十日には全部閉鎖せしむべき方針の旨報告した處右進行狀況今後共連絡ありたいとの事であつた。